

【熊本国税局長賞】

税が支える生活基盤

熊本大学教育学部附属中学校

二年 丸住 菜々美

私の両親は、税理士です。小さい頃から税のことは知っていましたが、あまり意味は分からず、なんでお金を払わないといけないの？とマイナスなイメージばかりでした。今、私が意識するのは消費税しかないけれど、大人になったら住民税や所得税などと他の沢山の税金も払わないという不満がありました。しかし、日本よりも税金が高い、ルクセンブルクの税に関する動画を見ました。ルクセンブルクは消費税25%ととても高く、国民の税負担率が世界一高い国です。しかし、医療費は全額無料、学費も全額無料なため、進学率も高くなっています。国民の生活水準も高く社会保障も充実し、幸せな生活を送れている人も多いです。それに対し、世界一税金が低いのがナウル共和国です。この国は大量のリン鉱石が見つかったおかげで国民のほとんどが無職、医療費教育費無料で世界有数の裕福な夢の国でした。生活費も支給され新婚夫婦には一軒家が与えられるほどです。しかし一九九〇年代後半リン鉱石がついに枯渇。働く意欲のない国民達は働かないと生きていけないという厳しい現状に直面し、今も経済的に厳しい状況が続いています。これを聞いて思ったのは日本の経済や管理している政府へのありがたみです。一時の幸せに溺れ、働く意欲を無くしてしまうのは絶対にいけません。親や他の大人の方々が毎日一生懸命働いて、その一部の私たちの未来のために投資してくれているのです。こんな良いサービス、他のどこを探しても絶対に見つかりません。大人が未来の日本のために投資してくれたおかげで、私達の生活が成り立っています。そう考えると、今までの自分は反省点ばかりです。学校という組織に無料で行かせてもらえて、無料で教科書で勉強させてくれて、無料で先生たちが教えてくれて、無料で他のサービスも利用させてもらっているのです。なのに、感謝の気持ちなしに、日々の授業をあつて当たり前のように受ける自分が恥ずかしく思えました。でもそのように思っている学生は私だけではないのではないのでしょうか。税金を払うことに対する嫌な気持ちしか考えていない人も多いのではないのでしょうか。このような気持ちをなくすためにはやはり自分から知ろうとする意思を持つこと。払わされていると思うのではなく払ったおかげで、払ってもらったおかげで今の生活があるんだと思つて払うのでは、税金に対する向きあい方がガラッと変わると思っています。私もまだ未熟ですが、日々の生活に感謝し、当たり前を当たり前と思わず感謝して日々生活していく大切さが分かりました。税金は私たちの生活基盤を支え社会全体の幸福度を表現するための大切な要素です。それを忘れず、日々感謝し、毎日楽しく、たくさん学ぶ日々に行きたいと思えます。